

第1回
神崎川圏域河川整備計画懇談会資料
流域及び河川の概要

平成19年8月24日

兵庫県

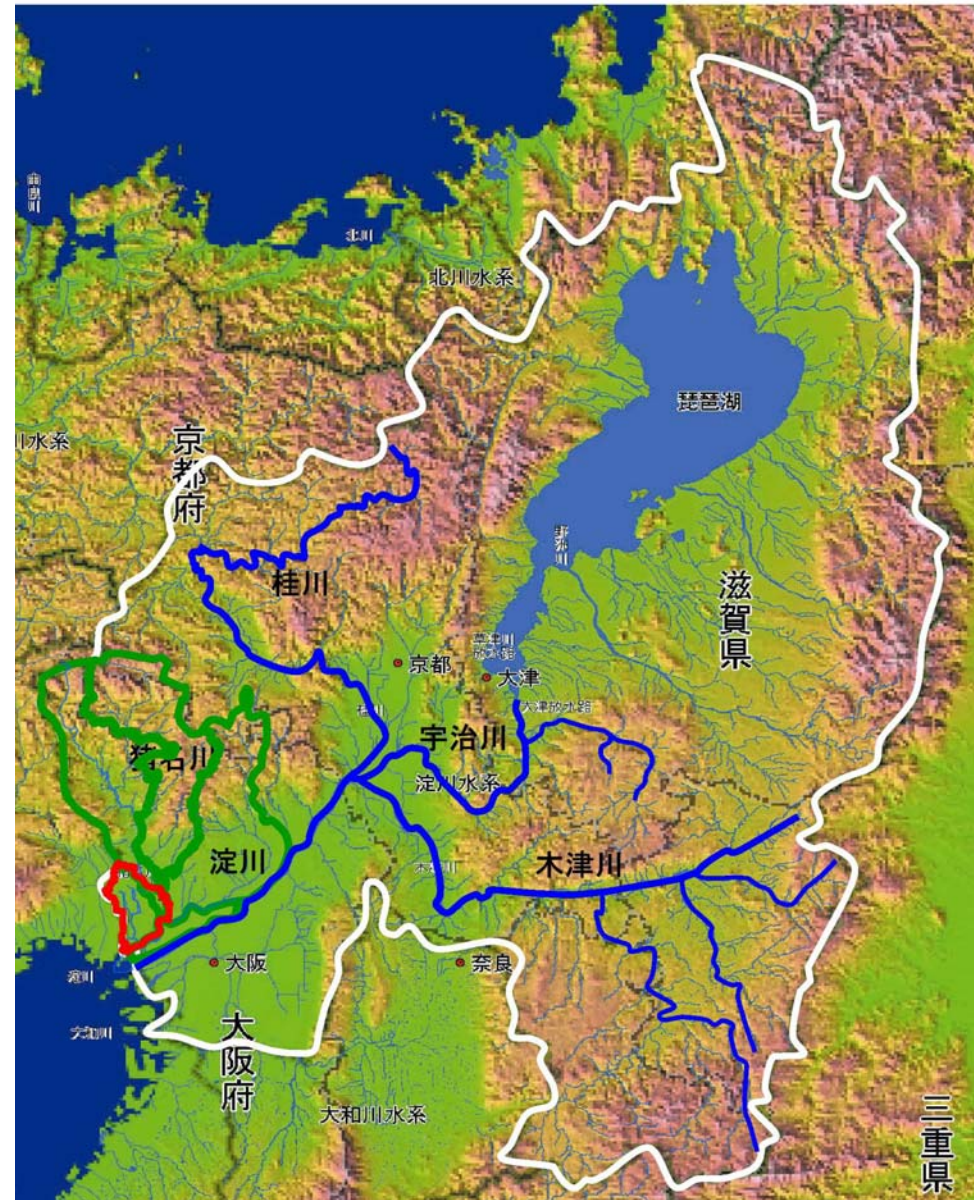
目 次

1. 対象河川と流域
2. 流域の自然環境
3. 流域の社会環境
4. 河川の概要
 - 4.1 災害の概要
 - 4.2 河川の現状
 - 4.3 下水道の現状
 - 4.4 河川の水質
 - 4.5 河川の生物
5. 地域の取り組み
 - 5.1 ふるさとの川モデル事業(庄下川)
 - 5.2 河川愛護活動等

1. 対象河川と流域

対象河川と流域(淀川水系での位置)

- ・ 淀川水系は、流域面積 8,240km²、流域内人口1,179万人であり、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良の2府4県にまたがっている。
- ・ 神崎川圏域は淀川水系の河口部に位置している。



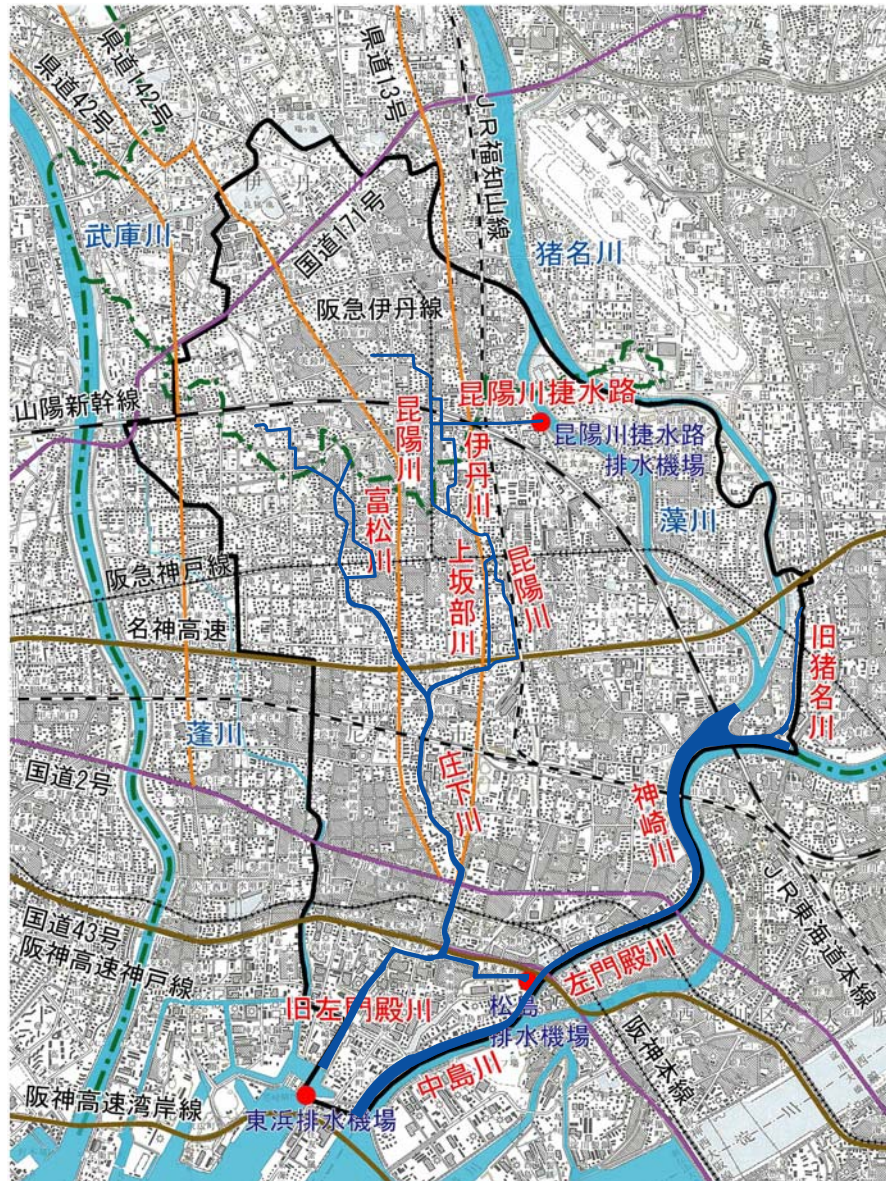
(背景図は国土交通省資料より引用)

対象河川と流域(神崎川流域での位置)

- ・ 神崎川流域は、流域面積591.1km²、流域内人口173.5万人である。
- ・ 神崎川圏域は、神崎川、猪名川流域の下流部に位置している。



対象河川と流域



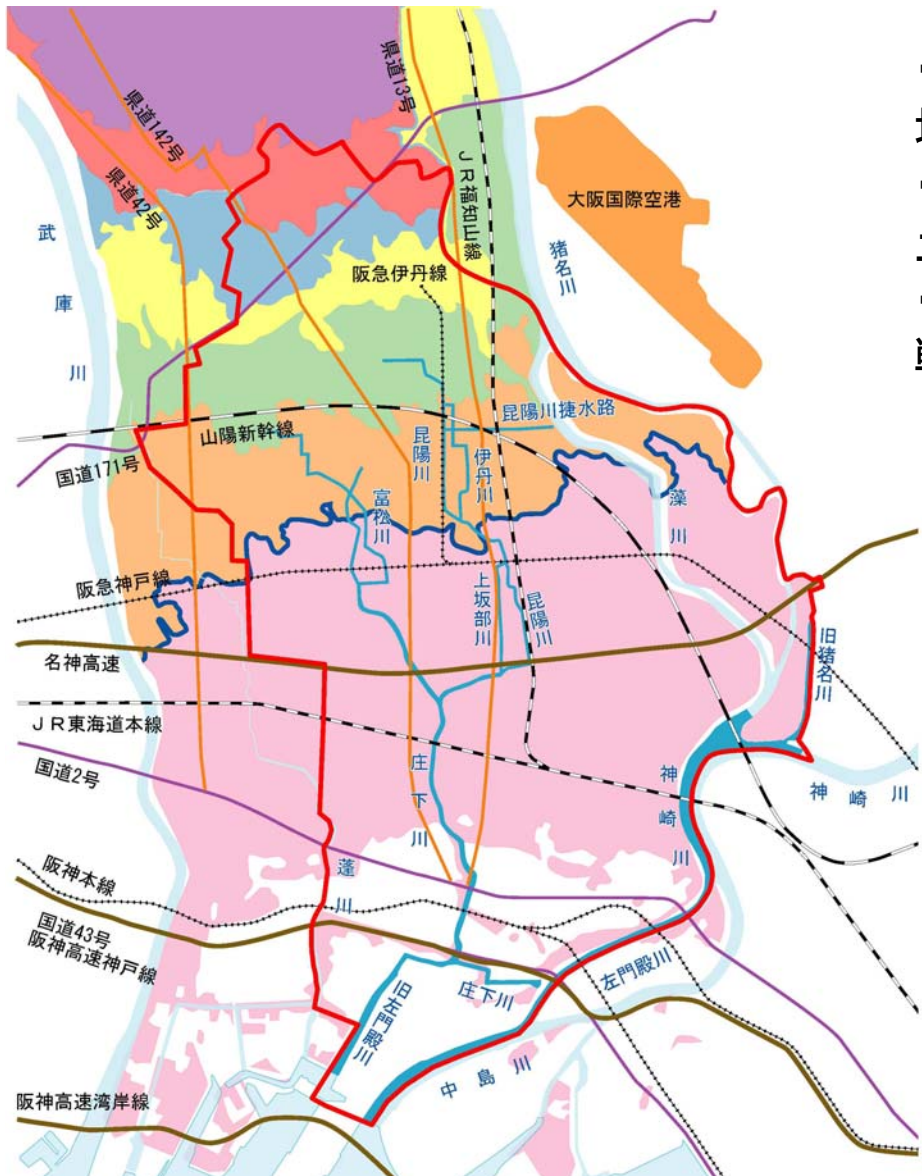
- ・ 神崎川圏域の河川は、神崎川、左門殿川、中島川、旧猪名川、庄下川、旧左門殿川、昆陽川、富松川、上坂部川、伊丹川、昆陽川捷水路の11河川からなる。
- ・ 圏域は尼崎市と伊丹市の2市にまたがっており、その面積は43.1km²である。

河川名	河川延長 (m)	河川名	河川延長 (m)
神崎川	2,450	昆陽川	5,386
左門殿川	2,250	富松川	2,800
中島川	2,980	上坂部川	1,375
旧猪名川	1,750	伊丹川	1,505
庄下川	7,792	昆陽川捷水路	1,206
旧左門殿川	2,280	—	—

凡 例	
	流域界
	法河川
	市境界
	排水機場

2. 流域の自然環境

地形



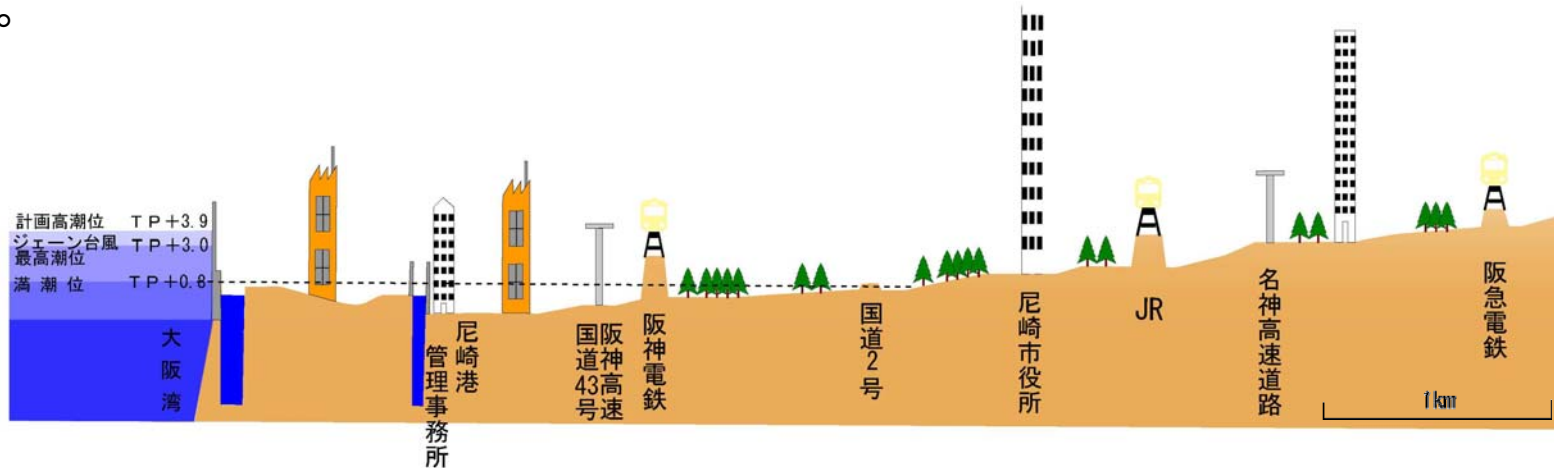
- ・標高5mの等高線を境にして、北側の伊丹台地と南側の尼崎平野に二分される。
- ・尼崎平野は武庫川、猪名川等から流出した土砂による沖積平野である。
- ・尼崎市では昭和初期から地盤沈下が始まり、戦後、高度成長期に最も沈下が激しくなった。

凡例 (T.P.+)	
	0 m未満
	0 m～5 m
	5 m～10 m
	10 m～15 m
	15 m～20 m
	20 m～25 m
	25 m～30 m
	30 m以上

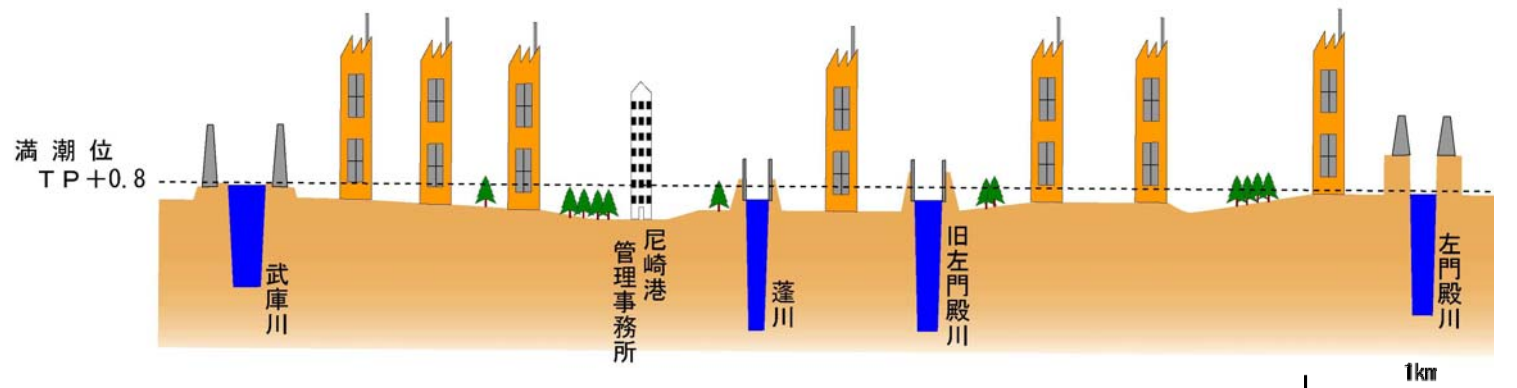
(出典：尼崎市史第1巻、1966)

地形

- ・地形を南北方向に見ると、満潮位よりも低い範囲が国道2号を越えて北側まで広がっている。

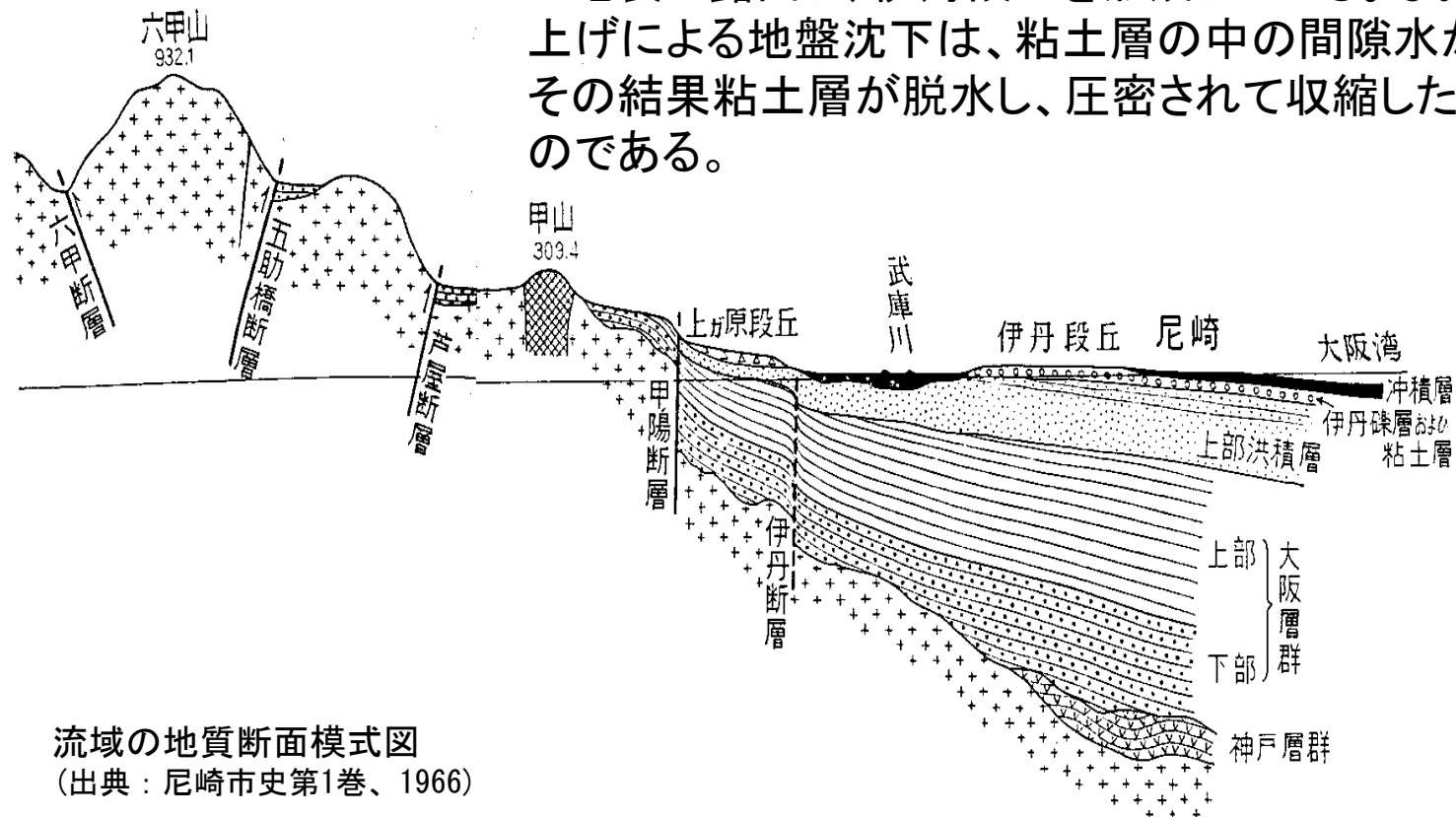


- ・地形を国道43号沿いの東西方向に見ると、ほとんどの範囲で河川水位の方が高い状況である。このため、流域から河川への自然排水が難しいという特徴がある。



地質

- ・古生層、花崗岩類、有馬層群(主として流紋岩・凝灰岩)が基盤岩類であるが、被覆層が深い(1,500m程度と推定)ため、地表には現れていない。
- ・被覆層は、神戸層群(凝灰岩、泥岩、砂岩、礫岩からなる)、大阪層群(礫、砂、粘土、火山灰からなる)となっている。
- ・洪積層の上位には伊丹礫層が広がっており、阪急神戸線以北で地表に露出し、伊丹段丘を形成している。なお、地下水汲み上げによる地盤沈下は、粘土層の中の間隙水がしぼり出され、その結果粘土層が脱水し、圧密されて収縮した結果、現れたものである。





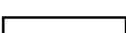


流域の地質断面模式図
(出典：尼崎市史第1巻、1966)

地質



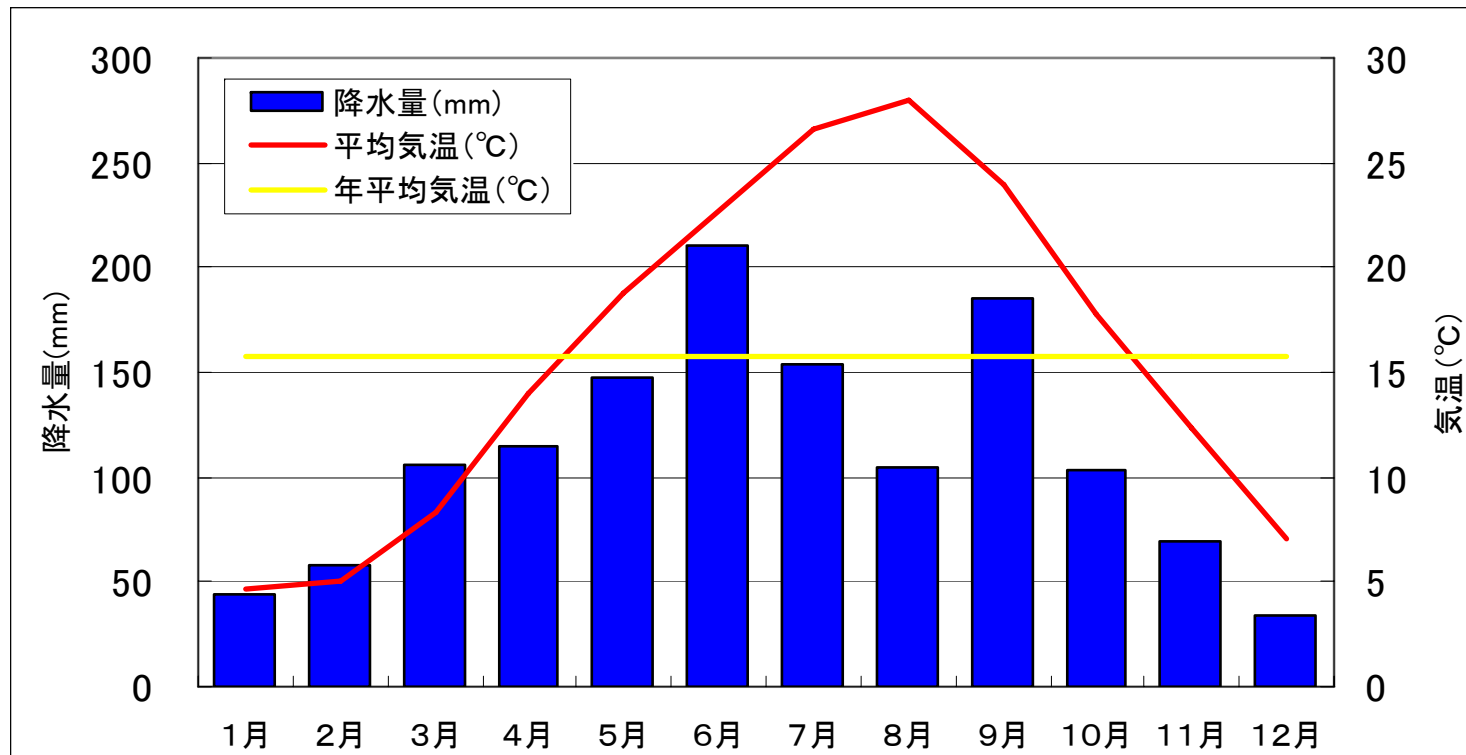
- ・伊丹礫層の上位には沖積層が広がっている。
- ・河川沿いの所々には自然堤防が見られる。
- ・国道43号よりも南側には埋立地がある。

凡例	
	埋立地
	砂州・砂堆・ 自然堤防
	低位段丘
	中位段丘
	沖積層

(出典：表層地質図（大阪西北部）、兵庫県 1998)

気候

- ・瀬戸内海性気候に属し、晴天が多く、気温は温暖であり湿度も低い。
- ・年降水量は約1300mmと全国平均約1700mmよりも少ない。
- ・平均気温は15.8℃と全国平均13.7℃よりも温暖である。



月平均気温、月平均降水量
(豊中 1979~2000年の平均値)

植生



- ・ 全域で市街化が進んでおり、大部分の区域が、市街地または工場地帯である。

(注) この調査は1980年代半ばに実施されたものであり、当時は「水田雑草群落」に分類されている領域が比較的広く見受けられたが、現在では市街化が進んでいる。

凡例

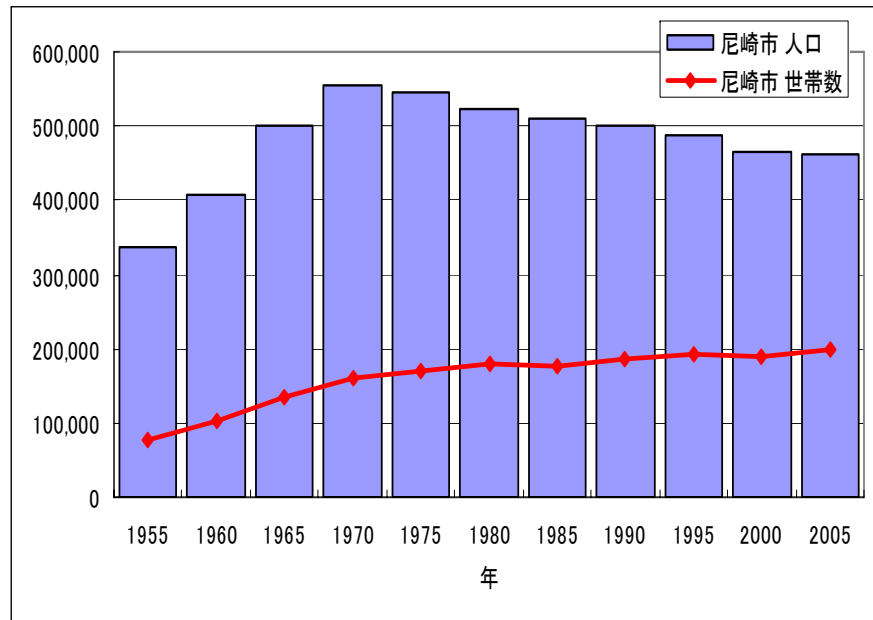
- ヤマケメダケ群落
- ヨシクラス
- ゴルフ場
- 水田雑草群落
- 市街地
- 緑の多い住宅地
- 工場地帯

(出典：「第2回自然環境基礎調査(植生調査)」、環境庁 1982)

3. 流域の社会環境

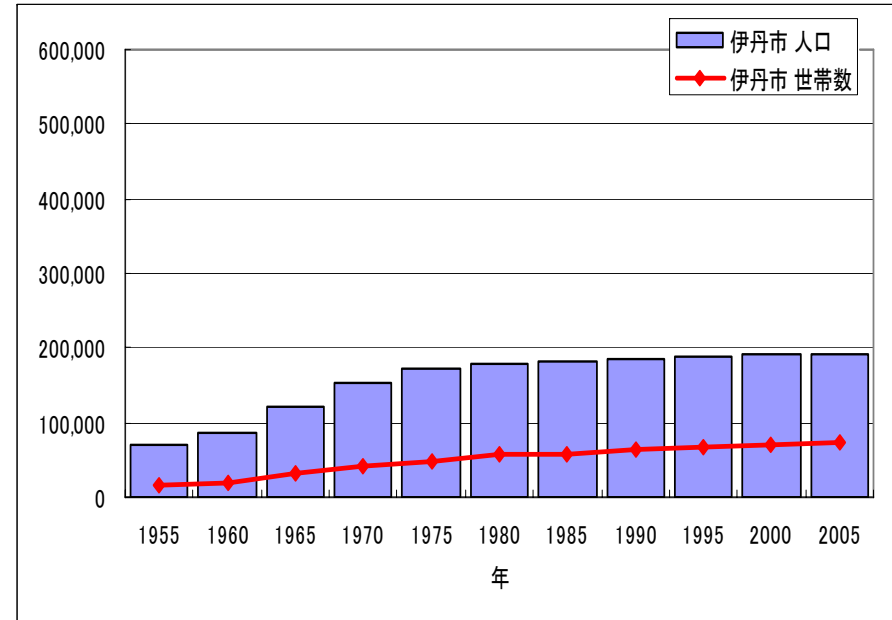
人口

- ・ 尼崎市、伊丹市の人口は、昭和30～40年代の都市化の進展に伴い、それぞれ55万人、15万人まで増加した。
- ・ その後、尼崎市では減少傾向となり近年は46万人となっている。一方、伊丹市では微増しており19万人となっている。



尼崎市の人口の変化

(出典: 尼崎市企画財政局資料)

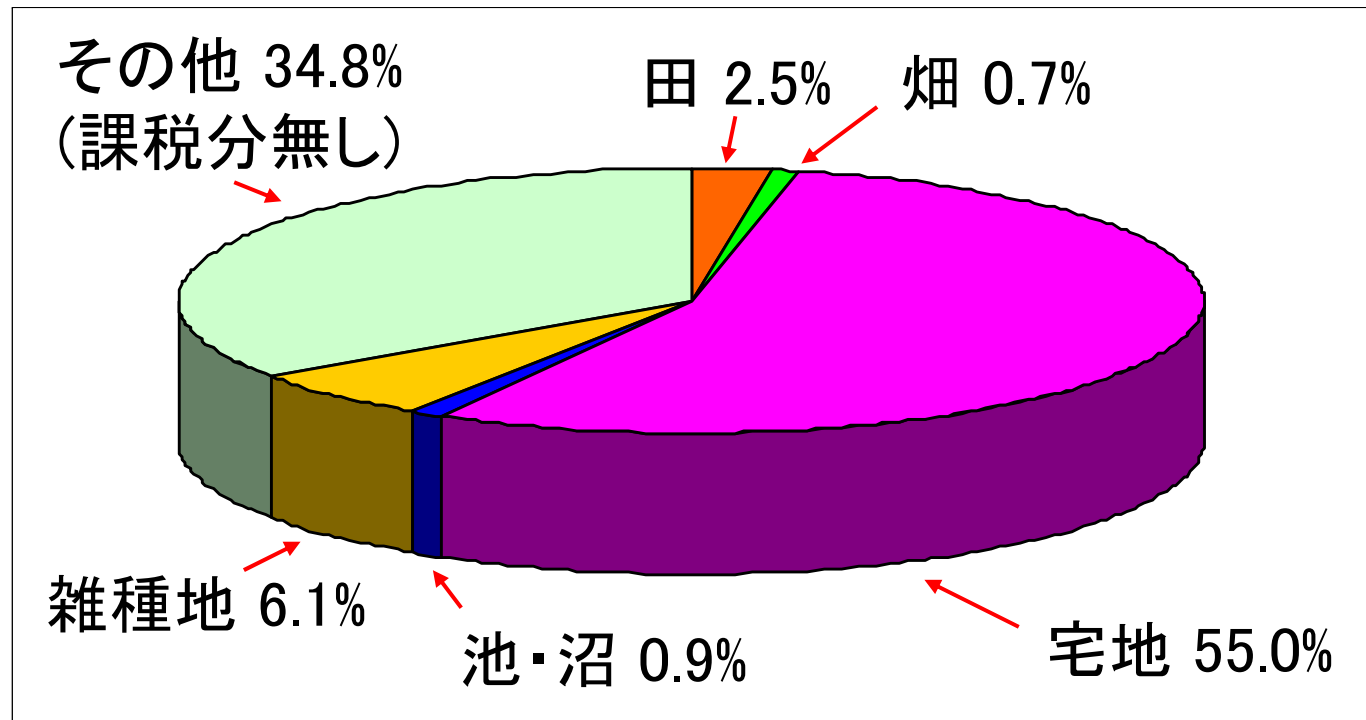


伊丹市の人口の変化

(出典: 伊丹市総務課資料)

土地利用

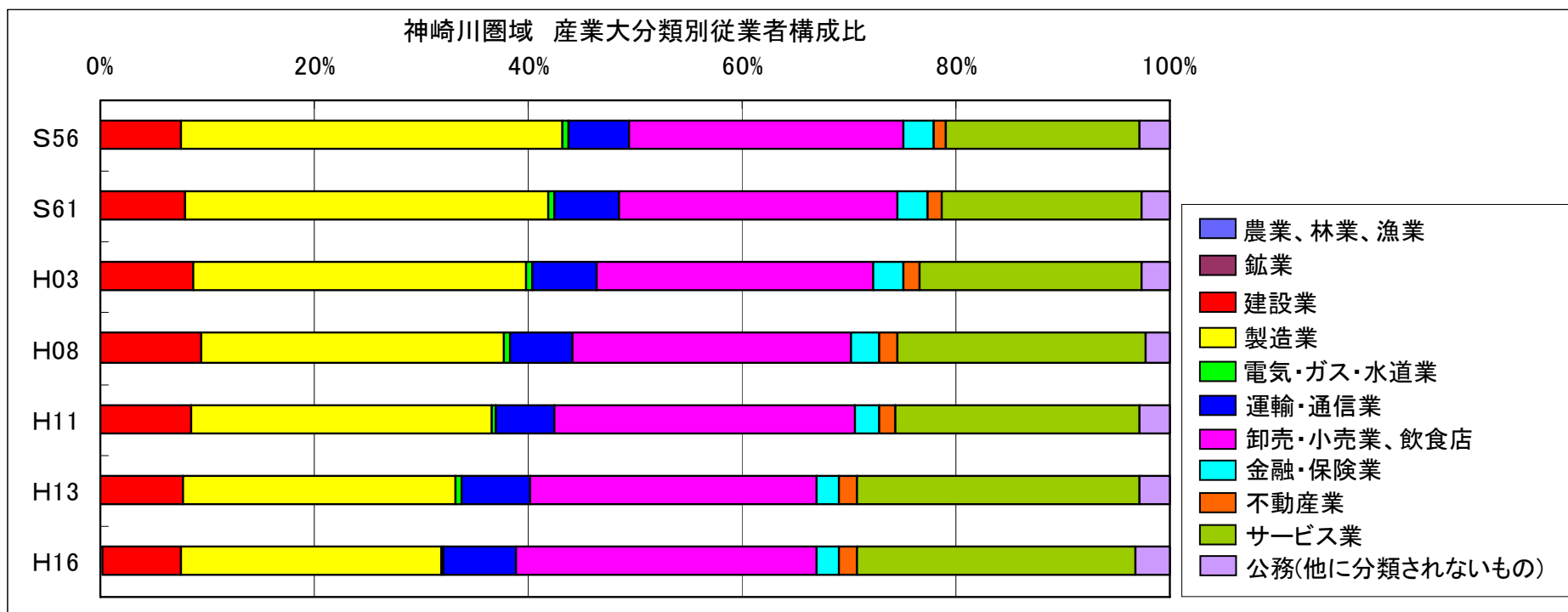
- ・ 宅地の占める比率が55.0%と最も高い。
- ・ 農地は田畑を合わせて3.2%とわずかに残されている状況である。



兵庫県統計書(平成16年版)のデータより算出

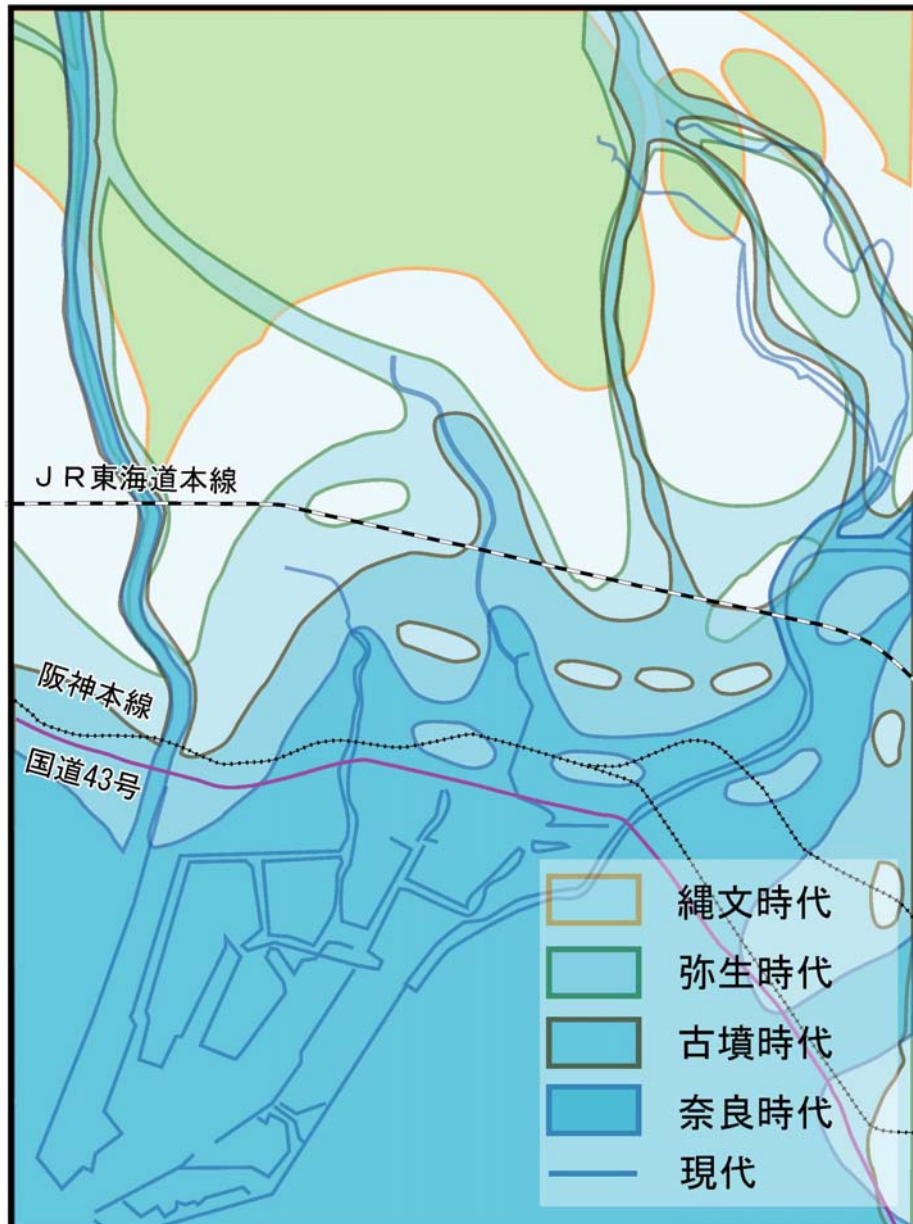
産業

- ・ 製造業への従業者は経年的に減少してきている。
- ・ 逆に、サービス業への従業者は増加してきている。



尼崎市統計書(平成17年版)、伊丹市総務課資料(平成17年)のデータより算出

歴史及び文化(1)



- ・ 平野部は、武庫川と猪名川が運ぶ土砂によって形成された沖積平野である。
- ・ 海岸線は、縄文～弥生時代には尼崎市北部付近と推定されている。
- ・ 古墳～奈良時代には、現在のJR東海道線～阪神本線の範囲まで南下し、各地で古墳が築造された。

縄文時代～現代の海岸線の推移
(出典: 尼崎地域史事典、1996)

歴史及び文化(2)

- ・延暦4年(785)、淀川と神崎川をつなぐ水路が開削されたことで、神崎川河口にあった河尻の泊(尼崎)が、京と瀬戸内・西国を結ぶ航路の重要な港となった。
- ・尼崎は、江戸時代に西国支配の拠点とされた大坂の西に位置するため、軍事上重要な地とされ、本格的な築城と城下町の建設が進められた。このとき、庄下川は尼崎城の外堀として利用された。



近松の墓所

- ・久々知の広濟寺は近松門左衛門の墓のある寺として有名である。



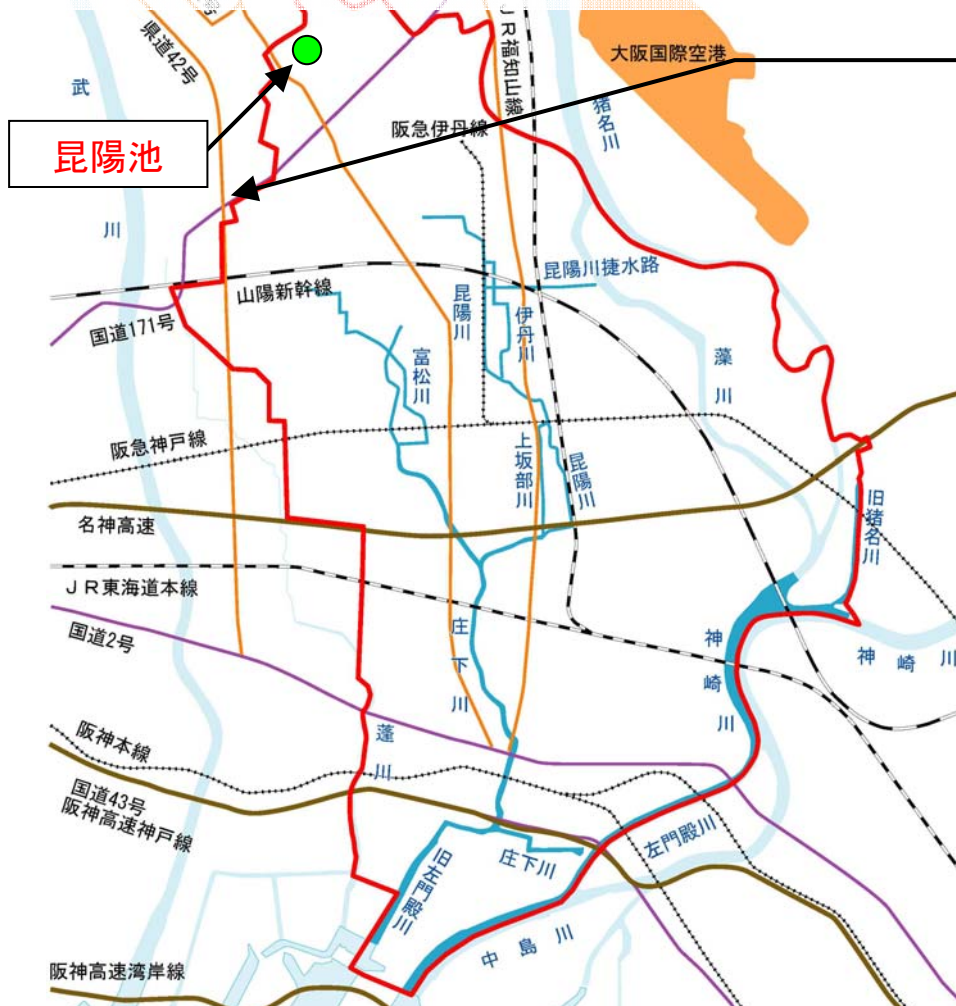
寺町界限

- ・寺町界限は、城下町整備で散在していた寺院を1カ所に集めてできたものである。

写真は尼崎市HPより引用

歴史及び文化(3)

- ・ 昆陽池は、天平3年(731)に行基が築造した農業用のため池である。
- ・ 伊丹は、戦国時代以降、有岡城の城下町として栄えた。
- ・ 江戸時代初期、酒造業がおこり、全国に先駆けて産業としての清酒醸造法を確立した。
- ・ 豊かな経済力を背景に文芸が流行し、俳人、上島鬼貫を生んだ。
- ・ 園芸業が盛んで、「芽接ぎ」などの独特な技術により、日本三大樹木生産地の一つを形成した。



・ 昆陽寺は奈良時代の天平5年(733)に行基が建立したもので、県の指定文化財である。

昆陽寺(こやでら) 伊丹市HPより引用
奈良時代に行基が建立した。
兵庫県指定文化財



蕪村筆「俳仙群会図」に描かれた鬼貫 伊丹市HPより引用

交通



- ・ 鉄道はJR、阪急電鉄、阪神電鉄が大阪・神戸を結んでいる。
- ・ 道路は尼崎市域で国道2号、43号が、伊丹市域で国道171号が通っている。南北方向には県道13号、42号、142号などが通っている。
- ・ 高速交通として、山陽新幹線、名神高速、阪神高速神戸線・湾岸線があり、伊丹市域の東には大阪国際空港がある。

4. 河川の概要

4.1 災害の概要

被害の状況

・ 主要な水害の被害状況を、治水事業の実施状況と併せて示す。

年代	年月日	雨量(mm)		河川名	浸水面積 (ha)	床下浸水 (棟)	床上浸水 (棟)	治水事業の実施状況
		総量	1時間					
1950-55	S25.9.3 (ジェーン台風)	85.8	-	庄下川、昆陽川他	死者・不明28名、罹災者24万人			S30
1955-59								● 尼崎第1閘門 ● 東浜第1ポンプ
1960-64	S36.6.24-27	407.8	27.0	昆陽川	155.0	1,045	150	S35
	S39.9.24-25 (第2室戸台風)	51.5	14.0	昆陽川	1.0	10	-	
1965-69	S40.5.26-27	89.0	10.5	庄下川、富松川他	329.0	2,236	100	S39 ● 東浜第2ポンプ
	S41.7.1-2	114.5	25.0	庄下川、富松川他	333.0	5,766	604	
	S42.7.9-10	295.5	60.5	庄下川、昆陽川他	1,150.0	20,300	3,641	
	S44.6.25	174.0	27.0	富松川、昆陽川他	131.0	858	86	
1970-74	S46.9.6	93.0	21.0	庄下川	3.8	400	4	S41 ● 尼崎第2閘門
1975-79								S40 ● 松島1-3号ポンプ ● 庄下川水門
1980-84	S58.9.27 (台風10号)	352.0	45.5	富松川、昆陽川他	58.8	1,232	37	S44 ● 東浜第1ポンプ (更新) S46 ● 東浜第3ポンプ
1985-89								S54 ● 東浜第3ポンプ
1990-94	H6.8.20	49.0	28.0	記載なし	12.9	536	22	● 松島4-6号ポンプ H4
	H6.9.7	267.0	102.5	記載なし	6.9	2,249	1,104	
1995-99	H11.6.29	323.0	69.0	記載なし	28.2	357	26	H11
2000-								

※雨量:伊丹観測所(S25は神戸、S36は小花、H6.8は豊中)

※被害状況は水害統計より引用

●: 海岸整備事業

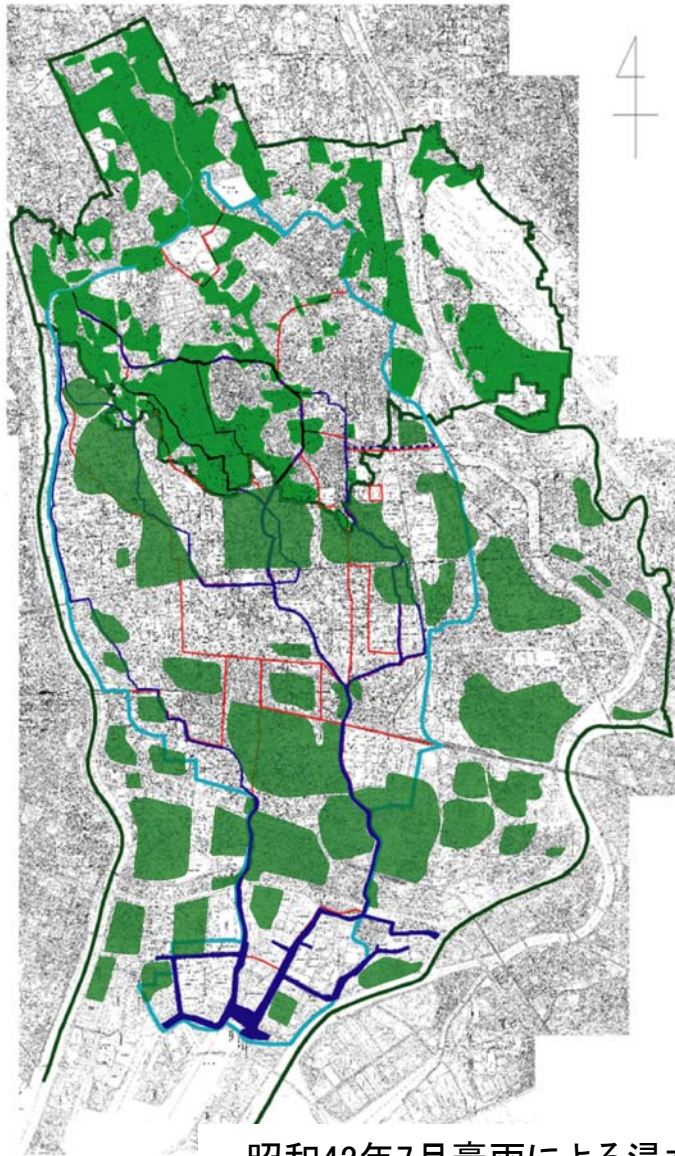
高潮による被害

- ・過去の著名な高潮被害としては、昭和9年(1934)の室戸台風と昭和25年(1950)のジェーン台風による被害がある。
- ・室戸台風では現在の尼崎市域の2/3が浸水し、死者・行方不明者が146人にのぼった。この台風による浸水被害が地盤沈下の実態を浮き彫りにした。
- ・ジェーン台風では死者22人、行方不明者6人、負傷者228人を含めて、罹災者が24万1,933人で、当時の尼崎市の人口約28万人より、ほとんどの市民が被害を受けた。



台風時最高水位の標柱
阪神尼崎駅南側(尼崎市HPより引用)
上：昭和9年室戸台風
最高水位 T P +3.80m
中：昭和25年ジェーン台風
最高水位 T P +3.00m
下：平均満潮位 T P +0.80m

豪雨による被害(昭和42年)



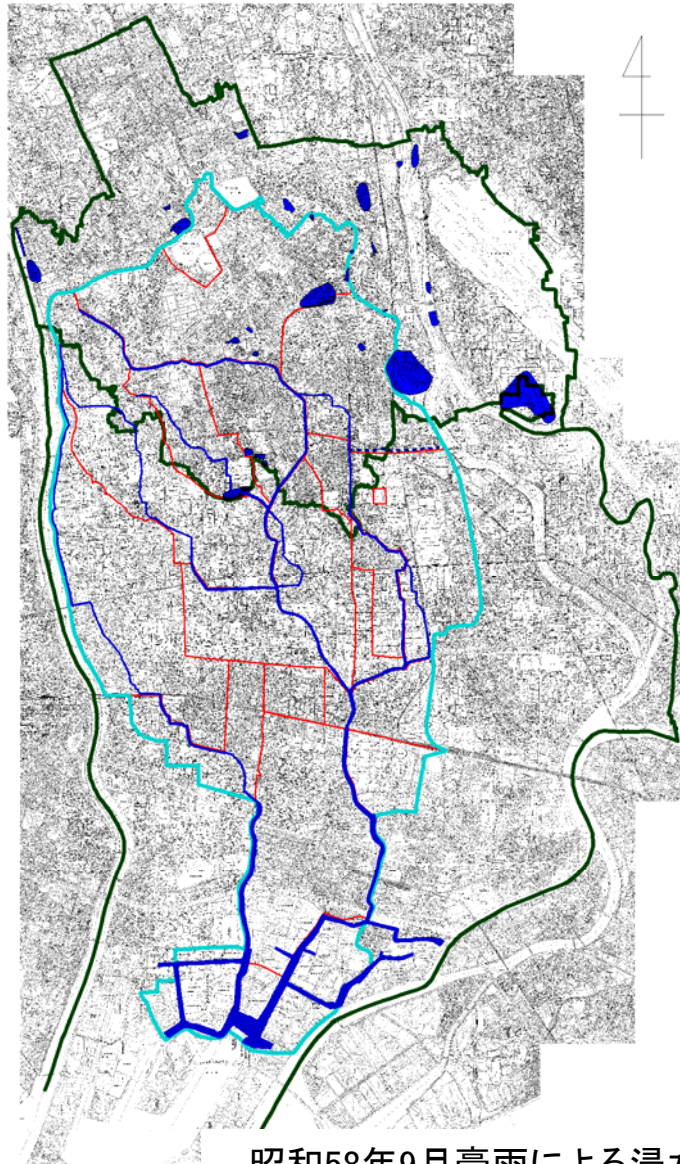
昭和42年7月豪雨による浸水範囲

昭和42年7月の豪雨

- ・ 台風7号くずれの低気圧に刺激され、西日本に停滞していた梅雨前線が、9日朝から活発な活動を始め、総雨量295.5mm、最大時間雨量60.5mmをもたらした。
- ・ 床上浸水約3,700戸、床下浸水約20,000戸、浸水面積約1,200haの被害となった。

雨量は伊丹観測所データ

豪雨による被害(昭和58年)

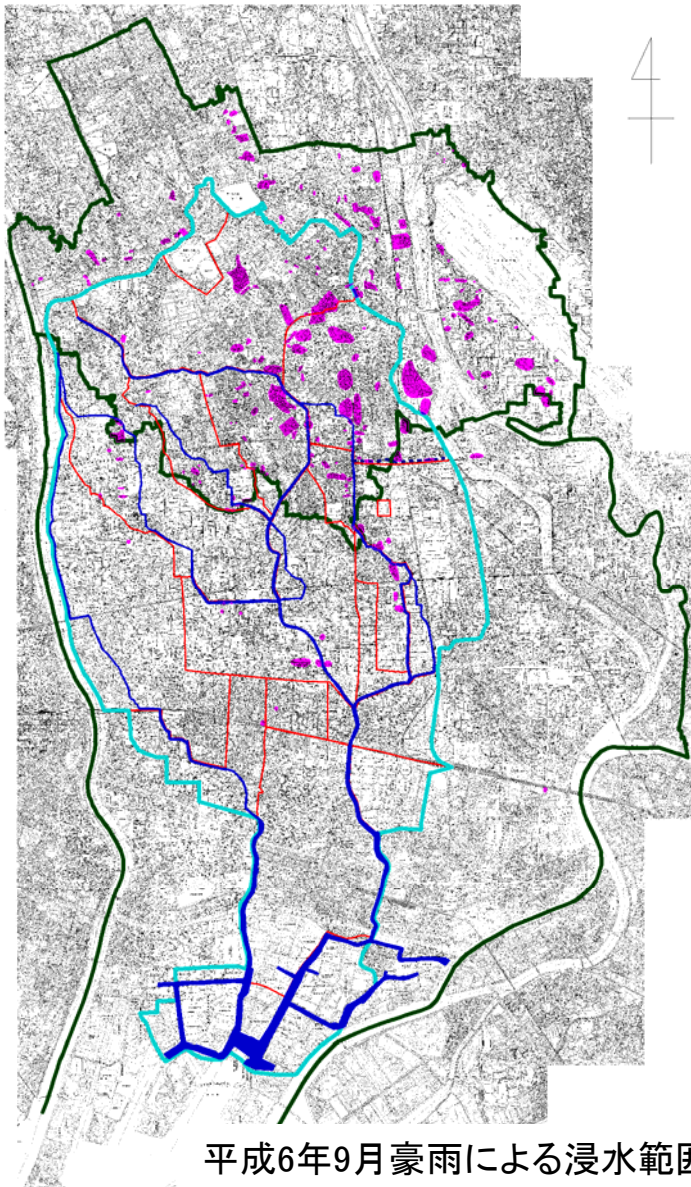


昭和58年9月豪雨による浸水範囲

昭和58年9月の豪雨

- ・ 台風10号が西日本に停滞している秋雨前線を刺激し、総雨量352.0mm、最大時間雨量45.5mmをもたらした。
- ・ 床上浸水37戸、床下浸水1,232戸、浸水面積58.8haの被害となった。

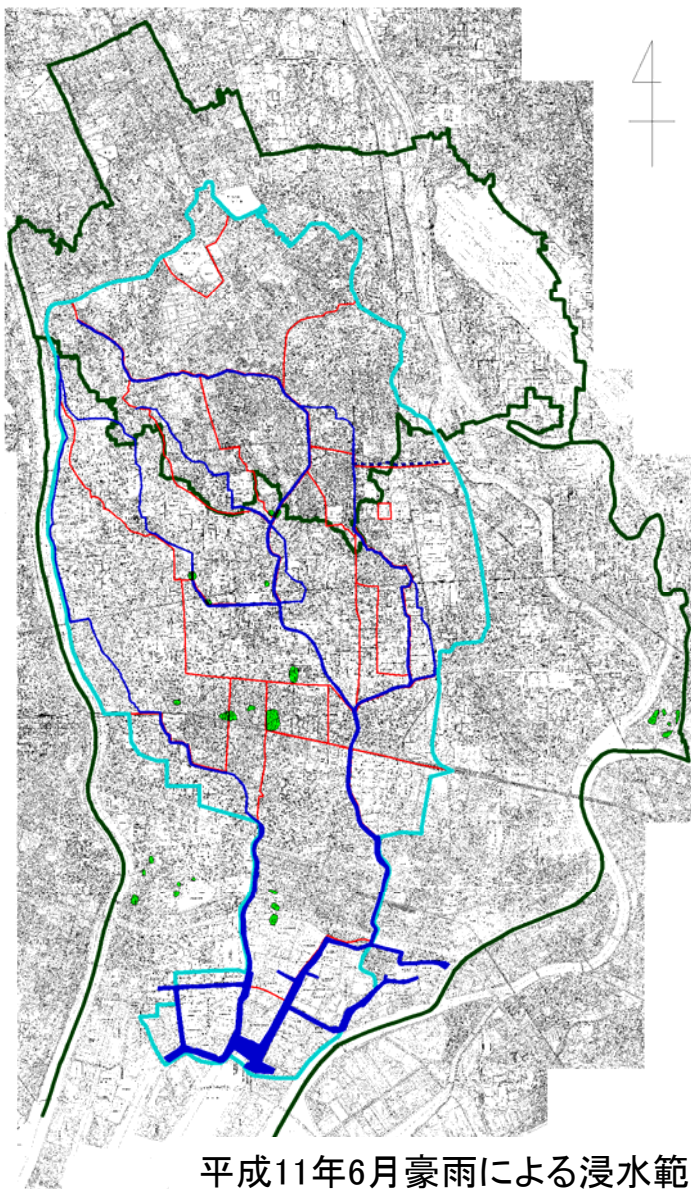
豪雨による被害(平成6年)



平成6年9月の豪雨

- ・ 寒冷前線により、雷を伴った局地的な豪雨となり、総雨量267.0mm、最大時間雨量102.5mmを観測した。
- ・ 尼崎市、伊丹市で床上浸水1,104戸、床下浸水2,249戸、浸水面積6.9haの被害となった。

豪雨による被害(平成11年)



平成11年6月豪雨による浸水範囲

平成11年6月の豪雨

- ・ 梅雨前線により、総雨量323.0mm、最大時間雨量69.0mmの豪雨となった。
- ・ 尼崎市、伊丹市で床上浸水26戸、床下浸水357戸、浸水面積28.2haの被害となった。

平成18年8月の豪雨

- ・ 最近では、昨年8月22日に集中豪雨が発生し、尼崎市北東部などで床上浸水67戸、床下浸水221戸、浸水面積7haの被害となった。

4.2 河川の現状

神崎川流域の現状

- ・ 神崎川流域には洪水調節施設として、一庫ダム、箕面川ダムがある。



河川の概要 神崎川

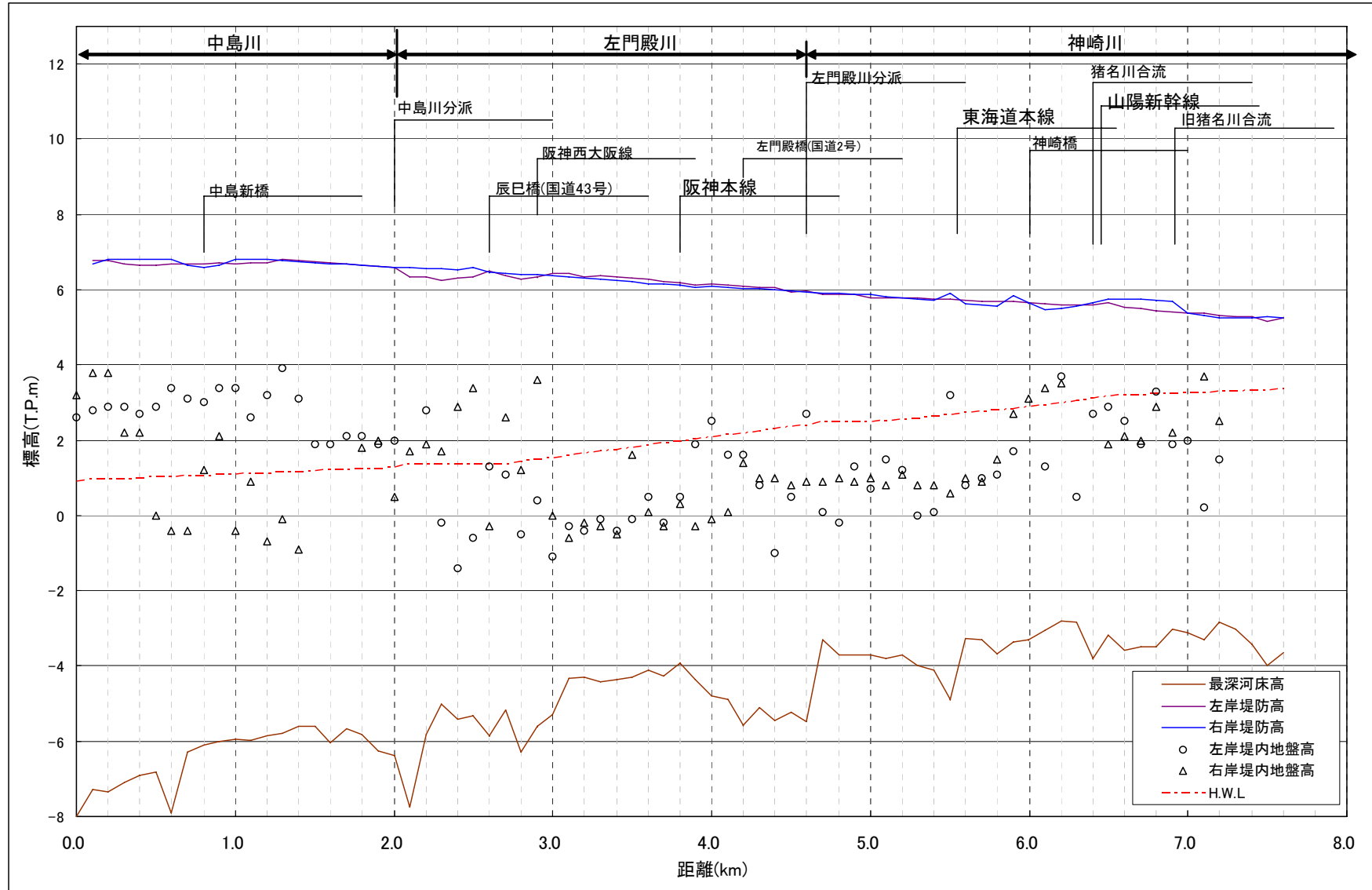
- ・ 淀川下流部の派流
- ・ 西国と京とをつなぐ運河として使われてきた。

神崎川改修計画諸元

項目		諸元
河川諸元	流域面積	591.1km ²
	延長	8.0km
	勾配	レベル～ 1/3,100
河川改修	改修事業	大阪高潮対策事業(S35～)
	安全度	1/200
	改修流量	4,300m ³ /s(神崎橋)



河川の概要 神崎川(縦断図)



神崎川(現地の状況)



神崎川(神崎橋上流)

山陽新幹線

猪名川が神崎川に合流する地点を望む。向かって左手の高水敷は河川公園として整備されている。



左門殿川(辰巳橋上流)

阪神電鉄

向かって左手の尼崎市側には工場が隣接し、貨物船への積み卸しが行われている。高水敷には散策路が整備されている。鉄橋は阪神電鉄西大阪線である。



神崎川(毛斯倫大橋下流)

山陽新幹線

旧猪名川が神崎川に合流する地点から下流を望む。向かって右手の高水敷は戸ノ内緑地として整備されており、散策等の場として利用されている。



中島川(中島新橋下流)

阪神高速湾岸線

中島川が阪神高速湾岸線橋梁を経て大阪港に流れている。両岸とも工場に隣接しており、貨物船の接岸できる施設がある。

河川の概要 庄下川

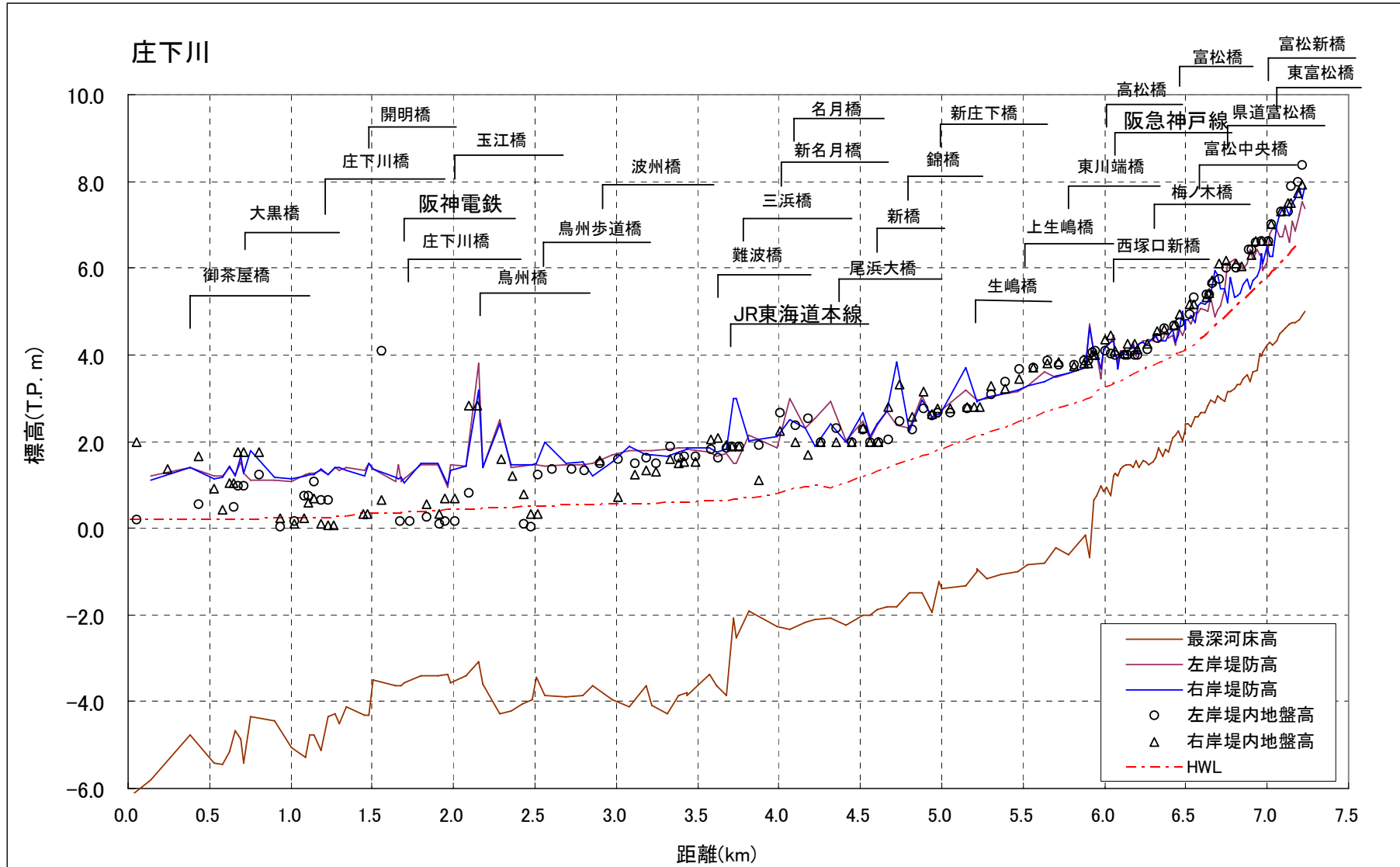
- ・上流端には昆陽池等のため池。
- ・昆陽川の上流には昆陽川捷水路があり、藻川にポンプ排水($Q_p=25\text{m}^3/\text{s}$)している。
- ・ふるさとの川整備事業で良好な水辺空間を形成。
- ・昆陽川合流点より下流は高潮整備区間。
- ・勾配はほぼレベル $\sim 1/250$
- ・河口部には閘門式防潮堤である尼崎閘門があり、閉鎖時には松島・東浜排水機場で排水している。

庄下川改修計画諸元

項目		諸元
河川諸元	流域面積	25.6km ²
	延長	7.3km
	勾配	レベル $\sim 1/250$
河川改修	改修事業	大阪高潮対策事業(S41 \sim) 都市基盤河川改修事業(S41 \sim)
	安全度	1/10
	改修流量	160m ³ /s
高潮	水門等	尼崎閘門
	排水機場	松島($Q_p=91\text{m}^3/\text{s}$ ・河川)
		東浜($Q_p=72\text{m}^3/\text{s}$ ・海岸) ※別途浄化対策ポンプ($Q_p=4\text{m}^3/\text{s}$)



河川の概要 庄下川(縦断図)



庄下川(現地の状況)

庄下川・旧左門殿川分流点



庄下川は阪神高速神戸線橋梁付近で二方向に分かれる。一方は、松島排水機場を経て左門殿川に排水され、もう一方は、旧左門殿川となり、尼崎閘門・東浜排水機場を経て尼崎港に流入する。

庄下川水門



庄下川 の環境対策、水質改善を目的とし、河川と港湾域を分離させるため昭和46年に建設。平常時は閉鎖されており、豪雨時に開放して治水上の安全を図る。

東浜排水機場



尼崎閘門



尼崎閘門は日本で最初の閘門式防潮堤として昭和30年に建設。その後、耐震性などの問題を解決するため平成6年に第2閘門が、14年に第1閘門が改築された。東浜排水機場は閘門閉鎖時に浸水を防止するため総排水量72m³/sのポンプ容量を有している。

昆陽川捷水路排水機場



尼崎市塚口地区、上坂部地区を浸水から守るため、昆陽川と伊丹川の洪水を捷水路を通して藻川に排水している。排水機場は総排水量25m³/sのポンプ容量を有している。

富松川・庄下川合流点 (阪急神戸線南)



富松川が合流すると、庄下川の河道幅は広がり、この付近から下流に向けて水辺空間が整備されている。

庄下川・昆陽川合流点



合流点付近は竹の下公園を水と緑のシンボル公園とした水辺空間が整備されている。鋼矢板護岸の上部は石積み護岸として改修し、散策できるようになっている。

松島排水機場



高潮対策事業の一環として昭和44年に建設。昭和58年台風10号の豪雨を契機に増改修し、国内最大級(91m³/s)の排水機場となっている。また、浄化用ポンプを設置して、常時排水による流れによって水質浄化を図っている。



4.3 下水道の現状

下水道整備の現状

・ 下水道の基本計画

行政区域	区分	処理区	区域	処理区域面積(ha)	排除方式	摘要
尼崎市	単独公共	東部(第1・第2)	JR東海道線・蓬川の南東側	881	合流	尼崎市 東部浄化センター
		北部 (西川・園田・東園田)	JR東海道線・JR福知山線の北東側	1,070	合流 (一部分流)	尼崎市 北部浄化センター
	流域関連	武庫川	JR福知山線・蓬川の西側	2,027	合流 (一部分流)	武庫川下流流域下水道 武庫川下流浄化センター
	単独公共	庄内	旧猪名川下流端の左岸側	3	分流	庄内下水処理場 (豊中市)
伊丹市	流域関連	原田	伊丹市の東側	1,309	分流	猪名川流域下水道 原田処理場
		武庫川	伊丹市の西側	785	分流 (一部合流)	武庫川下流流域下水道 武庫川下流浄化センター

・ 普及率(汚水)

行政区域	人口普及率(%)	人口(万人)
尼崎市	99.9	46.2
伊丹市	99.1	19.3

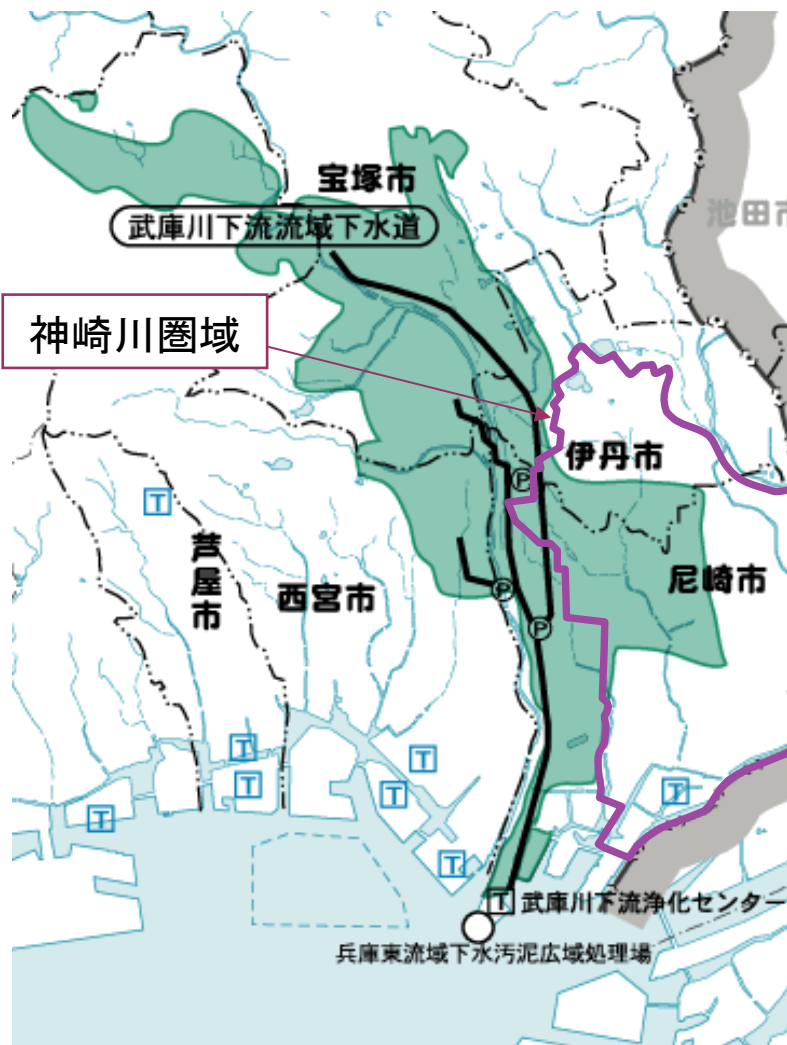
※H16年度末(人口はH17)

下水道の整備区域(1)

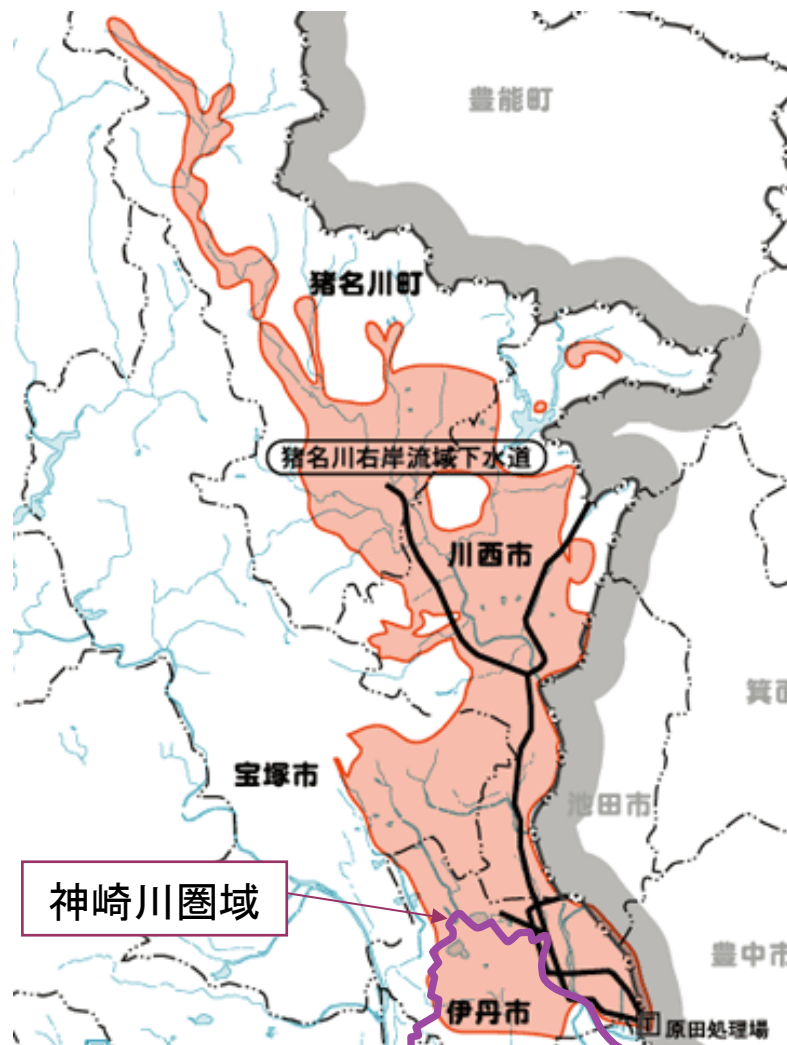


下水道処理区の平面図

下水道の整備区域(2)



武庫川下流 流域下水道 平面図



猪名川 流域下水道 平面図

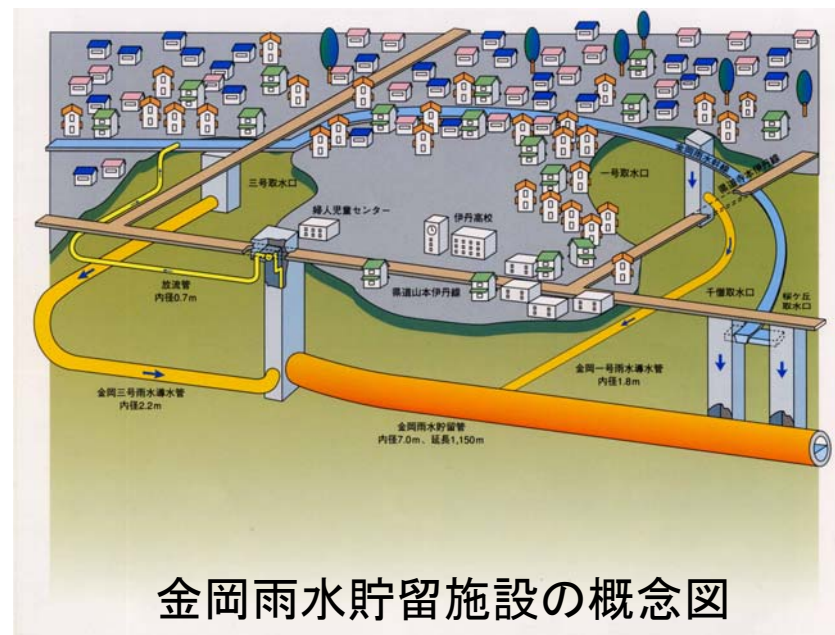
兵庫県HP(県土整備部土木局下水道課)の流域下水道平面図に圏域界を加筆

下水道(雨水)計画(1)

- 安全度1/6(6年確率・1時間雨量 46.8mm)で整備。
- 尼崎市は一部幹線を除いておおむね完成。伊丹市内は面積整備率75%[H17]で未整備箇所が存在する。
- 尼崎市内は合流式が多く、伊丹市内は分流式が多い。
- 庄下川の上流部は伊丹市では金岡排水路となり、雨水貯留施設がある。
- 中下流部は自然排水が難しいため、ほとんどがポンプ排水。

■金岡雨水貯留施設

- 伊丹市下水道により浸水対策として実施(H9~H12)
- 貯留管 $\phi 7m$ $L=1,150m$
- 貯留容量 約40,000m³
- 総事業費 約93億円



金岡雨水貯留施設の概念図

下水道(雨水)計画(2)



排水機場

ポンプ排水区	排水先	位置	排水量 (m ³ /s)
尾浜	庄下川	No76+30(左)	9.07
高田	藻川	(内水流域外)	36.33
常松	武庫川	(内水流域外)	20.00
栗山	庄下川	No50(左)	36.02
富松	庄下川	No59(右)	22.07
東灘波	庄下川	No69+30(右)	4.13
昆陽	庄下川(旧昆陽川経由)	No50+30(左)	3.92
西川	神崎川	(内水流域外)	20.90
東部(旧東部第2)	左門殿川	(内水流域外)	29.08
中在家	旧左門殿川	庄下川合流点	32.85
北部	猪名川	(内水流域外)	28.32
南武	武庫川	(内水流域外)	47.70
大庄	武庫川	(内水流域外)	52.80

※この他、蓬川流域、法河川区間下流を含む全内水流域には、昆陽川捷水路、松島(河川)、東浜(海岸)、その他(下水道、民間)の各排水機場がある

- 猪名川流域下水道原田処理区
 - 武庫川下流流域下水道武庫川処理区
 - 尼崎市公共下水道東部処理区
 - 尼崎市公共下水道北部処理区
 - 尼崎市公共下水道庄内処理区
- ポンプの規模
- ← ~10m³/s
 - ← 10~30m³/s
 - ← 30~m³/s

下水道の排水機場

4.4 河川の水質

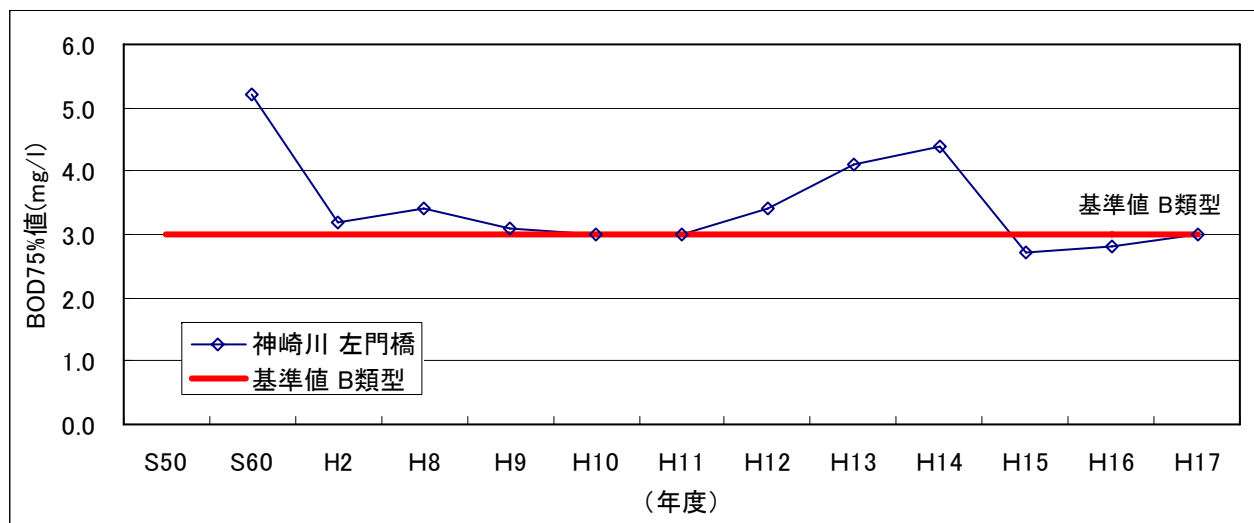
水質測定地点



・神崎川圏域の各河川における環境基準点は図に示す5地点である。

水質 (神崎川)

- ・ 神崎川では、基準値（B類型3.0mg/l）をやや上回る状況である。



水質測定結果の経年変化

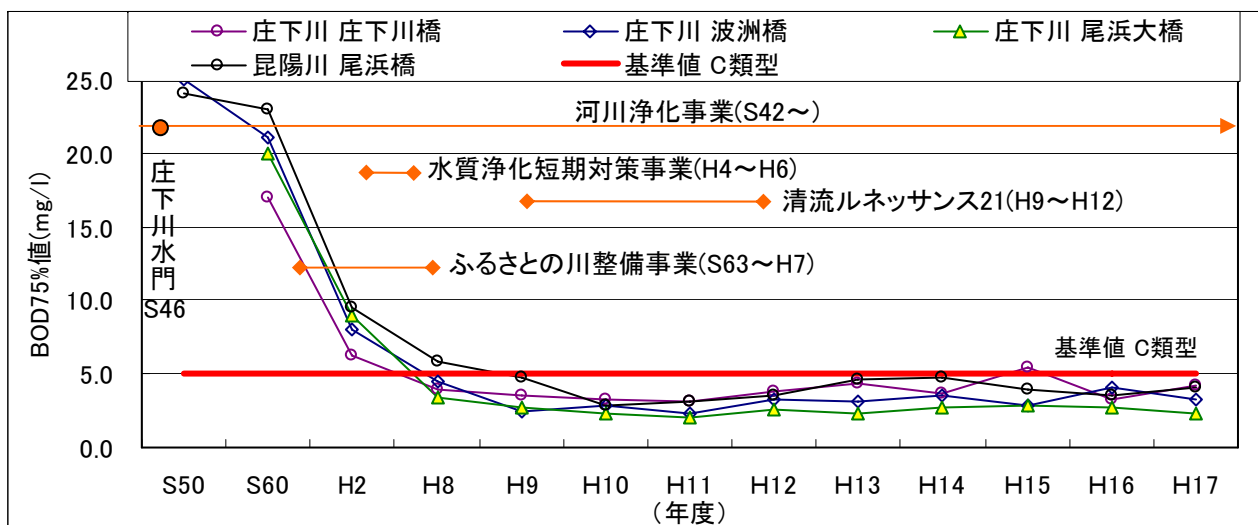
(出典: 尼崎市における環境汚染の推移、環境対策部公害対策課 2006.8)

水質 (庄下川)

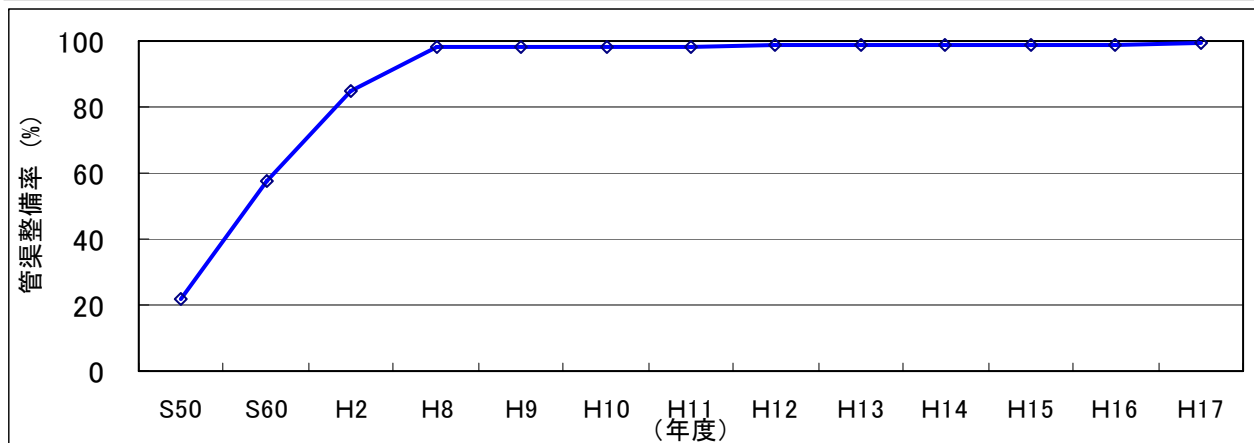
- 庄下川、昆陽川では、下水道整備の進捗、昭和42年以来の河川浄化事業、平成9年～12年の清流ルネッサンス21、昭和63年～平成7年のふるさとの川整備事業等の実施により、平成初頭までは基準値（C類型5.0mg/l）を上回っていたが、近年は概ね基準値を満足するようになっている。

水質測定結果の経年変化

(出典: 尼崎市における環境汚染の推移、
環境対策部公害対策課 2006.8)



下水道の管渠整備率
(尼崎市資料による)



4.5 河川の生物

河川の自然環境

- ・対象となる河川は、河道内に植生はほとんどない。
- ・河道は直線的で、垂直に近いコンクリート護岸が続き、生物の生息環境としては単調で多様性がない。
- ・圏域北部の昆陽池は、渡り鳥の飛来地となっており、カモ類をはじめとして多くの水鳥が越冬する。
- ・圏域内の河川は、いずれも市街地を流れる都市河川であるが、魚類、底生動物等の水生生物相調査結果では近年魚類の確認種数も増えており、水質は改善傾向にあると言える。



【マガモ】

主な魚類の確認地点 (平成12年調査結果)



これまでの生物調査で確認された魚類

(昭和61年、平成5年、平成12年尼崎市調査)

庄下川:カワムツ、オイカワ、タモロコ、モツゴ、カマツカ、コウライモロコ、コイ、オオキンブナ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、ドジョウ、ナマズ、メダカ、カダヤシ、ボラ、ブルーギル、ドンコ、トウヨシノボリ、マハゼ

<重要種>

コウライモロコ: Cランク(兵庫県RDB)

ドジョウ: Bランク(兵庫県RDB)

メダカ: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省RDB)、要注目種(兵庫県RDB)

<特定外来種>

カダヤシ、ブルーギル



【コウライモロコ】



【ドジョウ】



【メダカ】

写真出典) 魚類: WEB魚図鑑ホームページ / 鳥類: 伊丹市ホームページ「昆陽池の水鳥たち」

河川の自然環境

- ・対象となる河川は、河道内に植生はほとんどない。
- ・河道は直線的で、堤防とコンクリート護岸で整備された定形断面が続き、水深は深く、生物の生息環境としては単調で多様性がない。
- ・汽水域に生息するボラや、緩やかな流れを好むギンブナなどの魚類や、回遊性の底生動物であるモクズガニなどが確認されている。

これまでの生物調査で確認された魚類
 (昭和61年、平成5年、平成12年尼崎市調査および平成4年、平成9年大阪府調査)
 神崎川:ウナギ、アユ、オイカワ、ニゴイ、コイ、オオキンブナ、ギンブナ、ボラ、メナダ、スズキ、ウロハゼ、マハゼなど



【ボラ】



【ギンブナ】



【コイ】

主な魚類等の確認状況



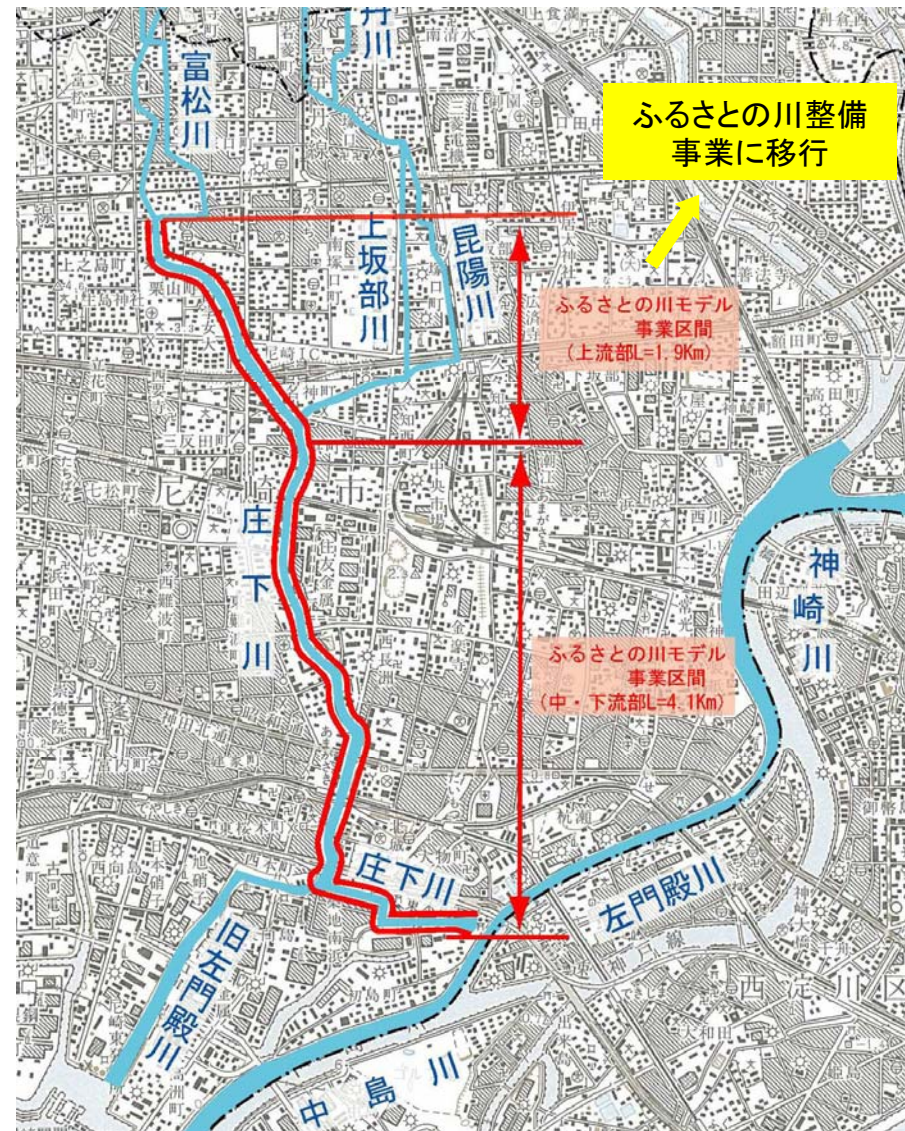
5. 地域の取り組み

5.1 ふるさとの川モデル事業(庄下川)

ふるさとの川モデル事業(庄下川)

- ・ 昭和30年頃、周りに立ち並ぶ工場からの排水の影響もあって、庄下川はヘドロのたまった川であった。
- ・ 尼崎市による下水道事業の進捗、昭和42年以來の河川浄化事業の実施に伴うヘドロ浚渫や庄下川水門による海水遮断等によって水質が改善した。
- ・ 昭和63年に「ふるさとの川モデル河川」に指定され、市民生活に潤いや安らぎをもたらす水辺空間の創造を目的に、環境、街づくり、景観と一体となった整備が行われた。
- ・ 平成4年～6年に水質浄化短期対策事業が実施された。続いて平成9年には清流ルネッサンス21が策定され、河川事業、下水道事業、尼崎市および伊丹市の関連事業が緊急的、重点的に実施された。

ふるさとの川モデル事業区間



ふるさとの川モデル事業(現地の状況)



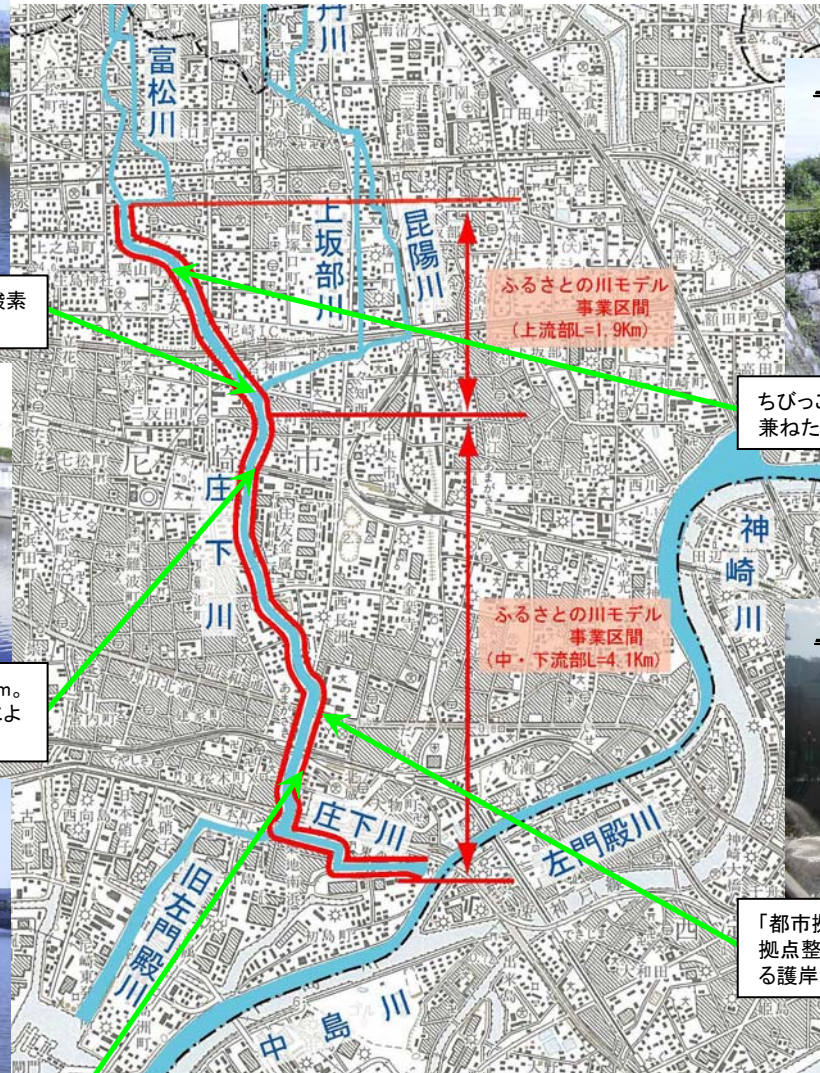
噴水を設置して庄下川と昆陽川に放流し、水中の溶存酸素を補給することにより水質浄化を図っている。



中・上流部で一定の水深を確保するため設置。堰高は1m。流水が落下することで曝気を促進し、溶存酸素の増加による水質浄化を図っている。



尼崎城址公園と一体となった散策路を整備。また、植生による護岸の緑化を図っている。



ちびっこ広場を設け、緑と親水の拠点空間を創出。修景を兼ねた噴水を設置し、水質浄化を図っている。



「都市拠点整備基本計画」に基づき、庄下川を中心とした拠点整備事業を実施。コンクリートプレキャストパネルによる護岸の美装化を行っている。

5.2 河川愛護活動等

河川愛護活動等

- ・ 代表的なものとして「ラブリバー庄下川作戦」がある。
- ・ 「庄下川・昆陽川を愛する会」などが清掃などの活動を行っている。
- ・ 尼崎市では清掃用品を支給している。
- ・ 県は河川愛護活動（河川清掃活動）に支援を行っている。



河川愛護団体の活動の様子(昆陽川)



昆陽川の清掃。1時間でこんなにゴミが集まりました！
(H16.6.20庄下川・昆陽川を愛する会)

- ・ 金岡雨水幹線沿道では、「みどりのまちづくり協議会」が沿道の緑化や散策道づくりを推進している。
- ・ 住民自ら緑を守り育てる担い手となり、計画から管理運営まで住民参画と協働における推進母体となっている。